

平成24年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(度会町)の概要

6月9日(土)に度会町で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。当日は、伊勢の国 鏡太鼓の皆さん16名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- これまでは、なかなか他の地域にアピールできるものがなかったので、自分たちが町民の人たちに自慢してもらえるような太鼓チームになりたい。
- 子どもたちから教えられることが多い。練習が厳しくても子どもたちは歯を食いしばって必死についてきてくれる。そういう姿に感動する。
- 5年前から太鼓祭を開催している。最初は、本当にできるのかと思っていたが、今では全国からたくさんのチームが来てくれるようになった。ゆくゆくは、東海3県で一番に、さらには日本一の祭りにしていきたい。
- 実際に運営していくうえで、人手が足りない。もっと地域の人にも活動を知ってもらい、みんなで参加できる祭りにしていきたい。
- 最初は趣味で始めたが、今では、子どもたちを巻き込んで、度会町のPRもしているので、責任を負っている。そういう活動をしていることを地域の人たちにも認めてもらいたい。

太鼓は消耗品であるが、高価なものであるため、会費だけで賄うのが難しい。こういう活動を支える仕組みや体制があったらうれしい。
運営費の問題だけでなく、人手も必要。そういう仕組みが必要だと思う。



トーク開始前には子どもたちに、トーク終了後には、大人の皆さんに演奏していただきました。

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

昨年の震災の際の「釜石の軌跡」でも、大人だったらもうここでいいやとあきらめるところを、子どもたちは必死に上へ上へと逃げたことによって助かった。そういう子どもたちのがむしゃらな姿勢には学ぶことが多い。

皆さんの活動を地域の人たちやもっと多くの人に知ってもらったり、認めてもらったりするお手伝いはさせてもらいたい。

活動を継続していくためには、お金も人手もかかるので、必要な仕組みをつくることも町と相談しながら進めたい。

皆さんの頑張っている姿を情報発信することで、他の地域で頑張っている人にとってもヒントになったりすることもたくさんあると思うので、そういうことを伝えて、県全体が元気になるように頑張っていきたい。

